



ハワイ大学語学研修の記録

2014/04/01

ハワイ大学語学研修を実施する意義

学生たちは、このハワイ大学語学研修から沢山の学びを得た。プログラムの事前学習で一島正真名誉教授よりハワイ日系移民の歴史を知り、その当時の人々の暮らしとその宗教観を学んだ。観光地として知られているオアフ島には、多くの日本人が日本より移民をし現在の日系社会を作った背景がある。昨年に引き続き研修では、ハワイ浄土宗別院、そして天台宗ハワイ別院を訪問した。また、「えひめ丸」の追悼式にも参列した。更にはハワイ日本文化センターにも訪問した。ハワイ大学では、宗教学部学部長モール先生による、日系移民の歴史と取り巻く仏教を学んだ。この、研修の背骨は、外から見る日系移民の歴史を知りながら現代のハワイを学ぶことであった。それ以外にも、勿論、英語力を身に付けることに重点が置かれた。コミュニケーション能力を身に付けるために、ハワイ大学の学生と沢山、話げできた。相手に伝える力をつけること、それが今、求められている。

もう一つ学生たちは学んできた。社会適応力 — 同じ目的を持った学生が集まり行動をすることの難しさ。自分の思いだけを通しては、何もうまくいかないことを学び、集団の中での自分を見い出すこと。社会適応能力を高めることで自分を成長させることが出来ること。時間を守り、約束事を守り、自主的に行動し、正しい判断をすること、今の若い人々が最も苦手とすることを、語学研修の集団生活の中で学ぶ。

ハワイ大学語学研修を通して学ぶことはたくさんあり、成長して場であった。

内向化が進む大学の中で

日本の学生に「内向化」が進み、その結果「海外に出ない」「留学は面倒」「わざわざ苦労するのは」という学生が増加傾向にあることが報告されている。確かに、大正大学においても同様の動きや傾向がここ数年見受けられる。特に男子学生の内向化は顕著になっているように思われる。今回のハワイ大学の研修を通して参加者の全体数で女子学生11に対して男子学生2の割合になっている。男子学生は更に、内向化が進んでいる。この主な原因は、他大学でも同じであろうが、大学生活の中で時間的な余裕と金銭的な余裕が持てない学生と言語での障壁が、その原因となっているように推察される。このプログラムには、ハワイへのステレオタイプ観が見え隠れしている。

本校が実施している「ハワイ大学春期集中講座」も上記のような影響を受け、参加者の数が少なかったが実施を継続する事で一人でも学生を海外に送り出す機会を与えることに重きを置きプログラムを実施している。

この号の内容

語学研修を終えて	1
各学生レポート	2
研修資料	3
付録	4

重要な日付

02/08	成田空港に集合でした
02/26	ダイヤモンドヘッド登山
03/03	思い出の写真



ハワイ大学春期集中講座に参加して、日本と海外の人や文化の違いや、その他気付いたことについて報告する。

まず、日本の大学とハワイの大学の違いである。大学のクラスは、自由な休み時間が設けられていて、生徒は毎日違うペアの人と組み、生徒対黒板ではなく、生徒対生徒、生徒対先生と会話形式で授業が進行していた。一番違うポイントは、日本の大学が一方的に授業を受けることに対して、ハワイ大学では、授業中に自由に学生の意見が飛び交い、また常に自分の意見が求められるという、能動的な授業だという点である。

生徒は多種多様な人種が多数在籍しており、まさに人種のサラダボウルである。日本の学生よりも、アメリカの大学の学生のほうが将来にやりたいことが明確で、そのために勉学に励んでいるようであった。また、日本の学生は短期留学生以外にはほとんど見られないことが分かった。やはり、日本の英語教育で、海外の大学を入学することは難しいことなのだなと感じた。日本の大学で英語を専攻しても英語が話せない学生が多いことから、日本の英語教育には問題があると思う。

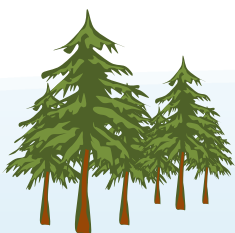
文化面での違いは、ハワイの人は道行く人に気軽に声をかけており、店員とお客さんが話している光景がよく見られた。ホテルの清掃員や、受付の人も明るく声をかけてくれる。

道で迷って困っているときや、買い物中に仕組みが分からなくて困っている時も、手を差し伸べてくれる人がいた。

またお年寄りに親切で、バスの中でも前の方の席は、お年寄りのために空けていた。日本とハワイでは、ハワイの人々の方が陽気な雰囲気があった。老若男女それぞれが人生を楽しんで謳歌していた。

今回のプログラムでは、浄土宗や天台宗に訪れ、日系移民について学んだ。ハワイに訪れるまで、日系移民については知らなかったのが衝撃的なことがたくさんあった。ハワイの学生の中には、自分は五世であるという人が複数いて、彼らは日本語を学び、日本について興味を持っていた。また、バスに乗っていると、日系の人に話しかけられることが多々あった。今日では地位を確立している彼らも、戦時中には、敵国として収容されるなど、その祖先である一世は考えられないほど壮絶な苦勞をしてきていた。現在ハワイにはたくさんの日系移民がいるが、一国の成り立ちには、彼らの苦悩の戦いの歴史があるのだなと知ることができて、大変意義のある訪問であった。

最後に、今回の短期留学では、英語の聞き取る力が向上した。バスでの移動中や、街中、ショッピングセンター、レストラン、どこに行っても英語を話すため、英語の必要性を、なお強く感じた。また、自身の英語能力についても、とっさに言いたいことが英語で言えないもどかしさや、伝わらない経験をして、もっと実践を積み重ねなければとも考えさせられた。ハワイの学生と日本の学生を比較しても、前述したとおり、ハワイの学生の方が将来を見据えており、それに向かって勉学に励んでいるので、大学で勉強する意義がはっきりしている。そのような学生たちと日本に多く見られる夢のない学生では、日本の若者は国際競争に負けてしまうのではないかと懸念される。時間は限られているのだから、もっと軸と目標を持って、それを達成させるためにはどうしたらいいのかを考えて行動しなければいけないと気付くことができた留学であった。



ハワイでの三週間を振り返ってみて、日本での生活や、普通の観光では経験することの出来ないさまざまなことを今回の語学研修で経験できたと思います。そして、家族と離れ、慣れない海外での三週間の生活で今までの自分より少しでも成長できたのではないかと感じます。

ハワイ大学への語学留学を決めたのは、英語が苦手で授業も必修以外は取らず、英語を避けてきました。そこで、ハワイという観光地でなら楽しく英語の勉強ができるのではないかと思い語学研修に参加しました。実際にハワイに行ってみると、当たり前だけれども全て英語で慣れるまで大変でした。そして自分が、今までいかに英語を勉強していなかったか改めて感じました。しかし、三週間の間で英語を少しは聞き取れるようになったと思います。

ハワイ大学では、周りから常に英語が聞こえてくる環境は私にとってとても新鮮で刺激的なものでした。授業は、英語での自己紹介、英語の歌を歌う、ハワイの歴史の勉強、ハワイの言語「aloha」や「mahalo」など、フラ、ハワイ大学の学生と話すインターチェンジ、「oahu gold」と言うフリーベーパーを使い海での遊び方やフラダンスについて勉強しました。その中でもインターチェンジの時間はハワイ大学の学生と約一時間英語で趣味や大学で勉強していること、おすすめのお店や食べ物について話しました。同年代の学生たちと先生なしの三人ほどで話しました。ハワイ大学の学生はみんなが日本語を理解できる訳ではなく、私は英語が少ししか話せないのでコミュニケーションを取るのがとても難しかったです。しかし、インターチェンジは授業で『学ぶ』ということとは違い趣味などを話すので楽しかった。授業では聞けない学生おすすめのお店なども知ることができてよかった。これを英語で伝えたかったと思う場面もたくさんありこれからも英語を勉強していくうえで大きな原動力になったと感じました。

異文化理解の学習では、ハワイにある浄土宗別院、天台宗別院、日本文化センター、ホノルル美術館を訪問しました。日本文化センターでは、約150年前の移民についての話を聞きました。移民した人たちは3年で日本に帰るつもりだったのに様々な理由により帰れなくなりハワイで生活していました。第二次世界大戦が始まると、一世の人たちは日本人として、しかし二世、三世の人たちはハワイで生まれハワイで育って、『自分たちはアメリカ人である。』そう思ってアメリカ兵として働いていました。しかし、アメリカ人と区別するため二世、三世には黒バッチをつけられ差別されていました。やがて、戦争が終わると支給されたお金を使い学校へ行き自分たちを差別する法律を変えようと勉強をするようになりました。そして、議員になり少しずつ法律を変えていくことに成功しました。

ハワイは観光地でとても華やかなところだと思っていたけど、ハワイの日系移民について学習してハワイを違った視点から見ることが出来ました。

ハワイでは自分の考えを求められる場面が多くありとても苦労しました。また、日本との違いに戸惑い分らないこともたくさんありました。今までは誰かが聞いてくれる、やってくれる。と自分からはなかなか行動することがなかったけれど、ハワイでは自分で聞かなければならない環境もたくさんあり行動力が少しは身についたと思います。

今回の様な経験は簡単にできるものではないので、この経験を通して学んだこと、考えたこと、感じたこと、出会えた人たちのことを大切にしていきたい。また、自分の考えだけでなく様々なことに目を向けていきたい。



私は、ハワイについたとき一番初めに感じたことは、「思ったより日本と同じ雰囲気がある」と言うことである。というのは、空気の匂いがそうさせたからである。気候が夏の日本と似ているからか、同じ島だからかは分からない。よく、外国に来るとその土地独特の匂いがあるという。しかし、ハワイにはそれがなく、日本と極めて近い匂いを感じた。そのことから日本と似ているという感想を持ったが、日々ハワイで生活していくうえで徐々にその認識が変わっていった。

最初にアメリカらしいと思ったことは、交通である。日本は左側通行なのに対し、アメリカは右側通行だ。そのためハンドルの位置も違うし、道路標識の向きも違う。左右確認も左を最初に見る。それだけでも私は外国感を感じられた。ホテルに着いたとき、気づいたことは家具の高さだった。キッチンや洗面所、テーブルなどは日本のものより30cmほど高いように感じられた。大学の机、バスの椅子なども高いと感じた。私は、身長が平均よりも高いため、それはありがたかった。身長が高いといっても、女性の中での話である。男性の場合、身長は170cmくらいあるし、中には190cm近い人もいる。日本人の平均身長はだんだんと高くなっているのに、なぜ日本の家具類はこんなにも低いのだろうか、日々疑問に思っていた。アメリカの家具は、とても私にフィットしていて素晴らしいと思った。

日本は、物価が高いと思う。物によるが、大体のものはアメリカのほうが安い。売っている値段は一緒でも、内容量が違うのだ。時々、スーパーマーケットで果物を買って食べたことがある。とてもみずみずしいし、甘かった。そのことをインターチェンジで一緒になったUHの学生に話したら、パイナップルなど以外は本土から輸入しているといっていた。同じアメリカだから、輸入と言う表現は変だが、面白いと思った。スーパーマーケットは、食材の置き方が日本と違う。日本は並べるような置き方に対し、ハワイでは積み上げるような置き方だ。野菜や果物も色とりどりでそのほうがわくわく感が増しそうだった。他の商品の陳列の仕方は日本と同じような感じだが、スケールが違う。ジュースや牛乳の入れ物が、まるで洗剤を入れている容器のような大きさだし、シリアル類の大きさも日本の倍はありそうな印象だった。また、ビニール袋も日本とは違う。日本はめったなことが無い限り、千切れないほど頑丈な作りになっているが、ハワイのスーパーマーケットに置いてあるものはぺらぺらしていてすぐに破けてしまいそうなのである。そのため、頑丈にさせるには二枚重ねで使いしなければならない。つくりが簡素な分エコロジーなのか分からないが、これでは無駄な量のビニール袋を消費してしまい、エコロジーではないなと思った。

ハワイに来て、外国の人たちへ抱いた印象は、「よく挨拶をする」ということである。挨拶と言うのは、「おはようございます」や、「さようなら」と言うものではなく、「ありがとう」や、「すみません」のことだ。バスの中でのいすの譲り合いのときや、道を歩いているときにぶつかりそうになったとき、そういうときに必ずといっていいほど、「Thank you」や、「Excuse me」を言う。素晴らしいことだと思う。日本では、会釈はしても言葉までは発さないことが多い。また、ドアを開ける際なども、後ろの人のために支えてくれる。それが当たり前のように行動できていることが違うと思った。日本では心のどこかで「できればしたくない」と思っている雰囲気がある。ハワイの人たちのようにお互い気持ちよく出来ればいいと思った。この点は日本もアメリカに見習うべきところなのではないかと思う。

最初に私が「思ったよりも日本と似ている」と言う印象は、日々ハワイで生活していく中で徐々に変わっていった。ハワイと言う島は、昔から日本人が多く移民し、今では観光地として利用してきたため、日本の文化が強く根付いているところだと思っていた。実際、「日本と似ている」と言う印象はそこから来ているのだと思う。しかし、日々生活していると、ハワイは思ったよりもアメリカだということに気づかされた。こんなにも日本とまだまだ違うところがあるからである。また、同じく日本は思ったよりも日本だということにも気づいた。どんなに外国文化が入ってきたとしても、日本古来の習慣は消えないし、日本人の好みと言うものがある限り、日本はいつまでも和風でいられると思った。今回の語学研修で、改めて自国と外国の違いが痛感させられたように思う。



今回の語学研修は私にとって初めての海外経験になりました。私は大学で語学を専攻しており、将来も英語に携わる仕事を目指しているのですが、語学だけではなく実際に他国に訪れて、その土地の歴史、習慣、人柄、独自のコミュニケーションの方法など経験し、更にそこから日本の美点を見つけ出し、自分の糧にすることを目的にこの語学研修に参加しました。

ハワイの地に足を踏み入れた時は、あまり海外に来たという実感はありませんでした。私は父の影響で洋画鑑賞が趣味なのですが、そこで海外の景色や人を見慣れてしまったせいか、日本の景色とハワイの景色が所々似ていることもあり、ハワイに着いた時に凄く吃驚するということはありませんでした。ただ長時間のフライトの疲れと睡魔が私を襲いました。穏やかな気候がそれに拍車をかけ、ハワイ初日は本当に疲れきっていたのを覚えています。アメリカナイズされた日本と、日本にいても簡単に他国を感じる事が出来る発展した現代社会のメディアを実感しました。

その後のハワイでの日々はとても充実していて、新しい発見の連続でした。素朴に思うことも多く、その度に現地の人に聞いてみたりしましたが、全部英語だったので、聞き取れたところは少ないです。“どうして電柱が木で出来ているのか”、“洋服店ではどうして手の届かない高さにまで商品を並べるのか”など。日本で見られないものへの疑問、興味が毎日を埋め尽くし、全てのものから目が離せませんでした。

一番驚いたのが、まず携帯電話、iPodを使っている乗客を見かけなかったことです。歩いている人も同様です。日本の多くの若い人たちは何処にいて、誰といてもみんな携帯を使っています。周りは携帯など使わず、おしゃべりを楽しむ3、4人の現地の人々がいる中、集団でいるのにも関わらず、話もせず、みんなが携帯とにらめっこしている日系人の姿をハワイで見かけましたが、それが異様に思えました。日本人の携帯依存症の酷さを目の当たりにして、日本人としても良い気分にはなれませんでした。

授業が終わった後は買い物に出かけることが多かったのです。最初こそは店に入る度に、店員さんに“Hi”や“How are you?”、“May I help you?”など色々と話しかけられ、返事をするのに緊張して吃っていました。日本では店員さんが“いらっしゃいませ”を、目を合わせてお客それぞれに逐一言ってくれることも少ないので特に返事は必要なく感じていたのですが、ハワイではお店に入った瞬間、店員さんは私と目を合わせ笑顔で“Hi! How are you?”と聞いてきたのです。あまりにも唐突で身構えてもいなかったのに、訳もなく首を縦に何度も振ることしか出来ませんでした。向こうもそれで私が英語に堪能ではないことがわかったのか、時折日本語で話をしてくれる人もいました。その時素直に感じたのは安心と共に悔しさでした。英語を学びに来ているはずなのに英語で挑もうとしない自分を恥ずかしくも思いました。しかし、日本にいるわけではないので、必然的に英語のみで対応しなければならない時が来ました。観光地を外れると日本語を話せる人は少なく、より言葉が通じない状況に不安がありましたが、自分の持てる限りの英語を使って根気よく何度も聞き返したりし

て、なんとか欲しいものが買えた時の達成感はたまたま最高でした。数日後には多少自信がついてきて、そういった状況にも慣れ始めてきたので笑顔で挨拶くらいは返せる余裕が出来ました。

そして私たちは3週間の間、ハワイの仏教を中心に勉学に励みました。現地の寺院や歴史館を訪れて話を聞き、日系人がハワイに移住してから今に至るまでの歴史、現代のアロハ仏教の形など、普通にハワイに観光で訪れただけでは知れないようなことを学びました。移住当時、日本人は奴隷として扱われ、第二次世界大戦中も肩身の狭い思いをしていました。日本人が苦しんだ過去は消えませんが、そうした過去を味わった一世の人たちは今でなお、笑顔でハワイでの生活を送っています。“日本に帰ろうとは思わなかったのか”、“当時の仕打ちを許すことが出来たのか”そうした疑問が思い浮かびましたが、何故だか聞いてはならないような気がして聞けませんでした。

ハワイを訪れるまでハワイにお寺、仏教があるとは思いませんでした。彼らの子孫である二世や三世、四世が生まれ育った間に、仏教も全てが全て日本式ではなく、キリスト独自のスタイルをも組み込まれていき、現代のアロハ仏教が確立しました。そのスタイルは今まで見たこともない光景で目を見張りました。

3週間という短い期間で得た今までにない経験と、英語漬けの素晴らしい日々は、今後のモチベーションに繋がりました。しかし、日本で無理に英語漬けの毎日を送ろうとしても限界があり、いつか嫌気がさす時が来ます。出来る限りの範囲で日常により楽しく英語を取り入れるように、毎日を少しずつ変えていく努力をしていこうと考えています。そして改めて各国の習慣や価値観により一層目を向けてみたいと思いました。私が印象に残っているのは酒や煙草、タトゥーにドラッグへの彼らの認識です。私たちは漠然とそれらはいけないものであると考えているところがありますが、インターチェンジの人に“何故そう思うの?”と聞かれ、私は答えに困りました。私なりにその理由を答えてはみましたが、向こうはあまり納得しているようには見えませんでした。彼らにとって、それらがいけないものであるという認識は我々より低いのだと思われます。そこで、各国のそういった物事の見方を学び、比較し理解を深め、自身の国の価値観を押し付けるのではなく、いつかお互いの考えや良いと思えるところを尊重して話し合える日が来ることを目標に勉学に励みます。今後の授業に前向きな姿勢で臨める気がします。

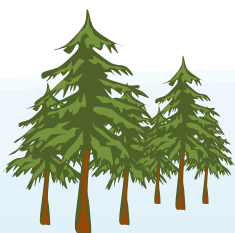


今回三週間に渡る研修に参加させていただき、普段することのできない貴重な体験をたくさんさせてもらい多くのことを学ぶことができた。振り返ってみると本当にあっという間の三週間で、こんなに毎日が充実していたのは初めてだったかもしれないと思えるくらいの思い出をみんなで作ることができた。この研修に参加できて心から良かったと思う。

私がこの研修に参加した目的は自身の英語力の向上である。ハワイは英語圏であるので、自分の英語力を高めるにはとてもふさわしい場所であると考えた。実際に日常的に英語に触れることで、以前よりも英語を聞き取ることができるようになったし、積極的に英語で話す姿勢も身についたので十分な成果があったと言えるだろう。あくまで観光地なので日本語も通用してしまう部分はあるが、それでも以前より格段に使えるようになったと思う。何より、日本人に比べハワイの人々はとてもおおらかで優しく、安心して話しかけられる雰囲気だったので気さくに話すことができた。日本人はイヤホンで音楽を聴いたり携帯を使っていたりとお世辞にも話しかけやすいとは言えない。また、知らない人から気さくに話しかけられるということも日本に住んでいるとあまりないので、ハワイの人々の優しい雰囲気がとても心地よく感じた。ハワイで生活するにあたり、習慣や文化など日本との違いを感じる場面が多くあった。例えばハワイには日本と違って四季がなく常夏の国と言われているが、私が驚いたのは日本との気候の違いである。日本の夏は湿気が多くジメジメとしているが、ハワイは湿気が少なくカラッとしているのであまり汗をかくこともなく日本よりもずっと過ごしやすい環境だと言える。他に印象に残っているのはハワイの交通に関してである。ハワイは日本よりも歩行者優先が徹底されているように感じた。横断歩道で待っていると必ずと言っていいほどすぐに一時停止して渡るのを待っていてくれる。日本では横断歩道で待っていても止まってくれるということは少ないし止まったとしても早く渡れ、といったような態度を取られることもある。日本はハワイに比べ交通量が圧倒的に多いので仕方ないことかもしれないが、見習うべきところではないかと考えさせられた。

毎日朝の6時に起床し大学へ向かうのは早起きが苦手な私からしてみれば大変なことだったが次第にこの生活にも慣れていき、日本に帰ってきた今でも早寝早起きが定着しているのはあの三週間があつてこそである。大学では授業内容も充実していて楽しみながら学ぶことができた。中でもInterchangeではハワイ大学の学生と交流することで、コミュニケーション力も身につけることができた。初めはとても緊張していたし、自分の言いたいことを英語で伝えることができずもどかしい思いもしていたが、回数をこなすにつれ相手との会話を楽しめるようになっていき、次のInterchangeが楽しみだと思えるようになった。この経験を機に、これからも積極的に海外の人々と交流する機会を増やしたいと思う。

三週間という長いようで短い時間をハワイで過ごし、自身の英語力の向上を強く実感することができたので当初の目的は達成することができた。また、ハワイの歴史や文化を学び、様々な場所を訪れ、ハワイを満喫することもできた。一日も無駄にすることなく全力でこの研修を全うできたと自信を持って言える。今回の研修の経験をこれからの生かしていきたい。



三週間ハワイに滞在してみて、気が付いたことがたくさんあった。

私たちがハワイに向かった日は、とても寒い冬日であった。東京では交通網が麻痺するほどの雪が降った。空港の滑走路にも雪が積もり定刻よりも遅れて離陸した。7時間のフライト後、ハワイの空気に触れた。ハワイの天候は曇りで、ばらばらと雨がちらついていた。体にまとわり付くような空気を感じ、蒸していた。日本の寒さと大雪が信じられなかった。

その後、ハワイで二番目に大きいショッピングセンター「パールリッジ・センター」で昼食を取った。フードコートを見てみると、アメリカのファーストフード店をはじめ、アジアやヨーロッパの料理を提供しているお店もあった。ただ、どのお店を見ても脂っこいものを扱っていた。さて、友達と私は昼食を買ってみた。だが、金額が合わない、と思ったらメニュー表示価格は税抜だった。日本では価格の税込み表示が一般的なので、ハワイでも同じ感覚でいた。自国の当たり前が、他国では通用しないことを改めて気づいた出来事だった。

大学の授業では、始まる前に先生がその日にやることを黒板に書きだしてくれていた。また、その授業は主に二人一組になって受けていた。お互いが情報交換をしてそれを先生に説明したり、テキストの文章を読んでそれに対する問の答えと一緒に考えたりした。クラスメイト同士でも、英語で話すことを心掛けた。そして、実行しているのを見て先生が褒めてくださった。先生は、授業内で発言する機会をたくさん与えてくださったし、私たちが英語で発言する時間を優先に、授業を進めてくださっていたように思えた。チャイムは聞こえず、休憩時間もはっきりしていなかった。私たちの話や授業のきりの良いところで休憩時間を下させた。そのため、私たちは時間を気にせず、安心してそれぞれのペースで英語を話せたように思う。また、先生は私たちが言おうとしていることを聞き取ろうとくださっていて、たとえ私たちが先生の質問に対しての答えが間違っていたとしても、その答えを聞いた後、改めて質問をし直してくれる。だから、私たちも失敗を恐れず伝えようと努力できた。

6回あったインターチェンジの授業では、一時間ぐらいハワイ大学の学生と一緒に話をした。知っているだけで使い方がわからない表現が会話途中で使われていたり、教科書にはない相槌の仕方などを聞けたりして勉強になった。また、ハワイの学生にハワイのことを聞くと、よく地元のことを知っていた。地元の人ならではの楽しみ方を教えてくれたりもした。もし、ハワイ学生が詳しく知らないことを私たちが訪ねたときには、「わからない。」とはっきり言いながらも、自分が持っている意見を述べてくれた。日本人は自国のことをよく知らないと言われるが、私もその一人である。知っていたとしてもその情報が中途半端なために相手に説明ができない。でも、「知らない」とは相手にいうのが恥ずかしい。幅広く人とお話をするには、身の回りのことや自国のことをよく知っていないといけないと思った。また、自分の身の回りのことに関心を持ってさらに、考えを持って生活することの大切さを知った。

ホノルル美術館に行った。仏教関連の作品を多く見た。また、日本の屏風絵や浮世絵など日本古来の作品もあった。日本国内では、テレビでしか見たことがないものをハワイに来て本物が見られるとは思っていなかった。日本の文化が他国からも大切にされていることを感じた。

語学研修最後の日曜日は、真珠湾に行ってきた。真珠湾自体はきれいに整備されたところだった。だが、小さな船に乗ってアリゾナ記念館に行くと日本海軍の攻撃によって沈んだ船体の水面には油膜ができていたところもあり、油の匂いもした。アリゾナ記念館に行く前にアタック博物館と真珠湾記念シアターで映像を見た。日本に比べ、当時の映像が豊富であったように思えた。私は、攻撃されたアメリカ視点からの映像をしっかりと見たのは、初めてだった。その映像を見るだけで、説明の内容が分からなくても伝わってくる部分が多かった。アリゾナ記念館に到着し、奥に進んでいくと慰霊碑があった。そこには、真珠湾攻撃で亡くなった方の名前が刻まれていた。それをみて、涙を流している現地の方を見かけた。その時は、日本人として心が痛んだ。私は、片隅に寄ってじっと、慰霊碑を見ていた。私は、真珠湾を訪れたことによって改めて戦争というものを考えた。

ハワイは、昔から日本人が多くいる場所であり、今では観光先としても人気なところである。だが、余暇を過ごす場所とするだけではないと感じた。ハワイと日本の関係は、ハワイへの日系移民の歴史から始まり、多くの苦労を経て今があることを知った。この三週間では、おそらく普通の観光では経験できないところへ行ったり、ガイドブックなどから学べないことを教わったりした。ハワイへの考え方が変わった。はじめは日本語が通じる観光都市だと思っていたが、それは一部だけであった。また、日本と歴史的にも深く関わる島だった。ハワイは、とても優しい人々が多くせつかな人がいない。穏やかな人たちとともに安心して英語でお話ができると思うと、またハワイに行ってもっと地元の人と交流したいと思った。今後、英語の学習にも今回のことを生かし励んでいきたいと思う。



苦手な英語をずっと克服できない自分を変えたくて、大正大学に入ってひと月ほど経ったときに短期語学研修の説明を受けた。研修先がハワイだという事を知り、日本人も多く親しみのあるハワイであれば、英語が苦手でも大丈夫かもしれないと参加を決意した。

3週間のプログラムの中で、ハワイ大学での授業を含め様々な経験をした。「観光地」というイメージの強いハワイだが、そのイメージが出来上がるまでの歴史の中で、日本と深い結びつきがあることを知った。ただ英語を学ぶだけではないこのプログラムは、私に多くの知識と刺激を与えてくれた。

大学の授業では週に2回ハワイ大学の生徒とのインターチェンジがあった。1回目のインターチェンジでは上手く話すことができず、気まずい思いをして英会話が少し怖くなった。しかし3週間かけ少しずつ使える英単語を増やし、最後には、簡単にだけれど色んな会話ができるようになった。

インターチェンジの人たちだけでなくハワイの街の人たちも、英語がうまく話せないのを理解しようとしてくれるし、助け舟を出してくれる。街中でもふとした時に英語を使う機会が増え、英語で話しかけられても笑顔で返せるようになった。日本と違うと感じたのは、みんな目があえば気さくに挨拶をしてくれるし、困っていれば話しかけてくれる。

最初は失敗するのが怖くて積極的に英語を使えなかったが、大学の先生たちやハワイの人々の優しさに触れて英語を使うのが楽しくなっていった。多くの人の優しさの中で、実際に英語を使うことで英語に対する苦手意識が次第に薄れていった。体験型の英語の学習は、最初は辛くても必ず成長が出来る良い勉強法なのではないかを感じる。

語学研修に出発する前、ハワイで英語を勉強する以外にどんな事をするのかと聞かれ、事前学習でもやった「ハワイにおける仏教の歴史」などを勉強するのだと言ったら、変な顔をされたのを覚えている。多くの人はハワイと仏教が結びつく意味が分からないだろう。そういう私でさえ実際にハワイのお寺を見て様々なことを勉強するまでは、ハワイのお寺に深い歴史があるとは思っていなかった。

しかしハワイのお寺を実際に見て、日曜の礼拝に参加し、さらにハワイの日系移民のカルチャーセンターに行くことで多くのことを学んだ。今まで「観光地」としてしか見ていなかったハワイと日本が深く結びついていたのだということを知り、世界にはまだまだ知らない事が多くあるのだと、刺激を受けた。

最初の2週間でハワイにおける日系人の歴史を知り、3週目の日曜日にパールハーバーへ行った。博物館や慰霊碑などを見て回ったものの、日本人の姿はほとんどなく、日本人の私たちは完全に浮いた存在だった。しかし、日本軍の真珠湾攻撃によって死んでいった人々の遺品や、沈んだ戦艦、アメリカ兵として戦争に参加したハワイの日系2世たちの資料を実際に見ることで、歴史の授業だけでは理解できない多くのことを知ることができた。敗戦国であっても勝戦国であっても、人が死んでいく悲しみは変わらない。日本は原爆を落とされ多くの人たちが被害を受けた。だが、戦争で被害を受けたのは日本だけではない。日本も世界の多くの人々の命を奪った。分かっていたことでも、その事実に向き合うことはとても辛いことだった。現代の日本人にとって身近な場所となっているハワイだからこそ感じるものがあつた。戦争というひとつの大きな歴史を両方の目線から見るという事は重要なことであり、とても良い経験になったと感じた。

このプログラムに参加したことで、英語能力の向上以外にも様々な面で成長することができた。別の視点から見るという事の大切さを知り、そのためには先入観にとらわれず、多くのことを知っていなければいけないのだという事を学んだ。生活の面でも見知らぬ街、いつもと違う生活環境の中で、自分たちの力で生きていく大変さを知ったし、言葉というコミュニケーション手段の重要性も感じる事ができた。

何より、苦手で仕方なかった英語を楽しんでいることができるようになったのが一番の成果だと思う。ハワイという場所でこのプログラムを受けることができたのを嬉しく思うし、これからの大学生活やその先の人生にも良い糧になると思う。この経験をバネに、さらに英語の能力を高めていきたい。そしてまた絶対にハワイに行きたいと思っている。



「ハワイ」という言葉を聞いて日本人の多くはどのようなことを連想するだろうか。おそらく「常夏の島」、「海や景色が綺麗」、「賑やかな観光地」など、そのほとんどが観光に関するイメージだろう。しかし、今回ハワイ大学語学研修に参加した私たちは、テレビや雑誌などで紹介される観光地とは違ったハワイを知ることができた。

待ちに待った私たちのハワイ大学語学研修の三週間は記録的大雪から始まった。飛行機は約三時間遅れで出発し、ハワイで過ごすこれからの生活の過酷さを暗示しているようだった。ハワイに着くと日本の雪景色や気候とは裏腹な常夏の風が気持ち良く吹いていた。もちろん、驚いたのは景色や風だけではない。目に飛び込んでくる異国、異文化の風習などがとても新鮮に焼き付いてきた。そして、現地の人たちはとても気さくで陽気であり、日本人にはない元気と明るさを持っていた。おそらく誰にでもフレンドリーに接しあえるこの人柄こそが、ハワイと日本の違いの中で一番明確な差であろうと私は考えている。例えば、買い物に行った際に、日本で店員が発する「いらっしゃいませ」という言葉は、とりわけ何も意味のない言葉としてスルーされていく。しかし、ハワイの人たちはしっかりとお店に入って来たお客さんの目を見て「いらっしゃいませ」と挨拶をし、そこからお客さんと店員の間でコミュニケーションが始まっていく。一見当たり前のように見えて昨今の日本では見慣れなくなった「見知らぬ人と挨拶から始めるスキンシップ」というこの光景が、私にとって衝撃的であった。さらに、このフレンドリーな人柄は思いやりや優しさという形となって多くの場所で発見することができた。また、映画を見ている時に日本では笑い声ですら物音をたてるといけないというような風潮が暗黙の了解のように存在するが、ハワイの映画館では違った。みんな一緒になって大声で笑ったりとても楽しい時間と場所を多くの映画を見に来たお客さんと一緒に共有することができた。映画館を訪れて驚いたのはそれだけではない。ハワイの映画館と日本の映画館とはスケールの大きさが違った。ポップコーンやドリンクのサイズは日本のサイズの倍以上の大きさがあり唖然とした。このようにスケールの違いもハワイと日本の違いの中で挙げられる例の一つであろう。料理の大きさ、服や靴のサイズはもちろん、街中を走るバスでさえも二両編成で運行しているなど、とにかくありとあらゆるものが日本人の常識を上回る大きさであった。

ハワイには日本の宗派のお寺がいくつか存在する。事前学習で学ばなければまさかハワイに日本のお寺があるなんて想像もしなかっただろう。最初の一週目に私たちは、ハワイ浄土宗別院と天台宗ハワイ別院に行ってきた。そこで見たのは日本とは全く違った雰囲気を持つお寺であった。まるで西洋の教会のような建物で、建物の中にはピアノが置いてあった。さらに、日本のお寺の床で最もポピュラーなのは畳だが、ここではそれすらも違った。私たちはここで勤行式を行った。これから先体験することのできないであろう貴重な時間を経験することができた。

講義や日本ハワイ文化センターではハワイの歴史や日本の移民について学んだ。今回のハワイ大学語学研修では特に日系移民について学ぶ機会や資料が多かった。1868年、ハワイへ第一号となる日本人の集団移民が行われ、炎天下の耕作地で一日約10～12時間の労働を強いられていた。ストレスと共に蓄積されていった不満の声はやがてストライキなどの反発へと移り変わり、ハワイへの移民は明るい朗報ばかりではなかった。先生方や日本ハワイ文化センターの人たちは当時のハワイの町並みや移民した人々の様子などを映像や写真などをもとに丁寧に説明してくれた。辺り一面焼け野原であった当時のハワイからここまで有名な観光スポットまで普及を遂げたのは血縁と共に受け継がれてきたハワイアンスピリッツの意思と歴史の積み重ねがいかに大事にされてきたかということと人々の凄さを物語っている。

一見楽しげそうに見えるこのハワイにも外国の怖さやリアルが裏に隠れていた。華やかな観光地とは思えないほどホームレスの人々が目についたり、観光者をカモにしてお金を取ろうとしている人々など危機感を感じる場面にいくつか遭遇した。

今まで自分が見てきた角度を変えて、新しい目でいろんなものを見直してみること、また、新しいものに出会った時に感じる味わったことのない新鮮な感想などは自分にとって大きなプラスになるだろう。このプラスが将来どこに繋がっていくかはわからないが大切な自分の一部分であることに変わりはない。10年後か20年後、いつか振り返った時にあの時から何かが変わったと思える日が来る。それがこのハワイ大学語学研修の三週間だと言えるように今回の経験を生かしていきたい。



私は、このハワイの語学研修に参加して今までになかった経験をたくさんした。この研修に参加する前は、海外に行った経験がなかったということもあり不安な点もたくさんあったのだが、ハワイについたらそんな不安もすぐになくなった。

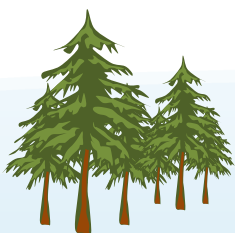
ハワイに来て私がはじめて驚いたことは自然が多かったことである。道にはハワイで有名なヤシの木がいろいろな場所に埋まっていたり、日本では見たことのないような鳥が飛んでいたりと日本より自然を感じられやはり南国だなと感じさせられた。

大学の授業が始まると最初は、英語が苦手だったので先生が言っていることを理解するのが大変だったのですが、先生が分かりやすい単語を使って丁寧に教えてくれるのでとてもわかりやすく安心して授業を受けることができた。日本の英語の授業では先生が日本人ということもあり日本語に頼ってしまうことが多いが、この研修では日本語があまりわからない先生なので日本語に頼ることなく英語で伝えようと努力することが出来るので英語力の向上が期待できる。また、授業で週に2回行われていたInterchangeではハワイ大学に通う学生と交流するというものだった。これをする事で自分が言いたいことを辞書を使用して調べて伝えたり、現地の学生の速さの英語を聞き取るなど英語能力を向上させるためには1番ためになったと実感する。町中を歩いている時も、英語を聞いているだけでリスニング力がつくことが出来るし、分からないことは自分から積極的に現地の人に質問することによってコミュニケーション能力を上げることができ、授業を受けることも大切だがこういった現地の人とのコミュニケーションも英語を上達するうえで大切だと私は考える。

また、日本とハワイの違いに驚いたことがある。それは寺だ。日本の寺というと黒と白を基調としたデザインのものが多いのだがハワイの寺はピンクであった。ピンクを基調として一見城のようなデザインのものだった。中に入ってみると、正面には日本でもあるような金色の大仏が置いてあり、椅子は教会にあるような椅子でピアノも置いてあり、内装も洋風になっていた。寺で行われていた儀式に参加したところ、日本では歌を歌うという習慣はないと思うが、日本の歌を歌ったり地元の人ウクレレを弾いたりして日本の寺というよりは教会をイメージした方がイメージしやすいだろう。だが、お経を聞いている時に皆が手を合わせて祈っている姿を見るとやはり寺だということを実感させる。

そして、大学の授業で習うフラダンスではハワイ独特の踊りであるとすぐにわかった。私は、ヒップホップというダンスを趣味で踊っているのだが同じ外国から来たダンスなのに踊り方は全くと言っていいほど違う。ヒップホップは技があるが振りに意味などはない。しかしフラダンスは、振りの1つ1つに意味が込められていて踊っている人が表現をしてみている人に伝えていくのだ。フラダンス振りの意味にはハワイの文化や伝統などの意味が込められていて踊っている人を見ただけで文化や伝統などが伝わってくるのだ。

このハワイの研修を通して、あっという間の3週間だったが、相手の会話をしっかり聞き、自分の言いたいことを辞書で調べて理解して伝えることをしていけば絶対に英語は向上していくのだと私は実感することができた。これからも英語を伝えるということを忘れないで英語を学習していこうと私は考える。



2月8日～3月2日まで、ハワイのハワイ大学で語学研修に参加しました。

私がこの研修を通して学んだことは、それぞれにはそれぞれの良さがたくさんあるということです。まず、日本から海外へ出てみると「違い」を感じる機会がありません。今回の語学研修で、初めて日本から出てみて、授業や映像を通して外国について学んでいてもわからなかったことを、実際に現地に行ったことによって身をもって体験し、「日本とアメリカの違い」をととても強く感じることができました。

まず1つ目は、「チップ」というシステムです。（※チップとは、ホテルのベッドメイキング、レストランなどのサービスをした際に渡すお金）日本では、このようなシステムは廃れたか、サービス料として無意識のまま徴収されているため、馴染みの薄いものとなっています。しかし、アメリカでは当然のシステムなのです。チップシステムがある国では、サービス業の賃金が安く設定されているため、チップが働く人の生活給を支えているとも言われています。ベッドメイキングの際には1ドル程度、レストランなどでは料金の10～15%となっています。日本には馴染みの薄いこの「チップ」というシステムは、アメリカでは当然のシステムなので、日本人がアメリカで生活するという面で、1番日本との違いを実感できたことでした。

2つ目は、他人思いである人が多いということです。ハワイでバスに乗っている際に、空いたら奥へつめ立っている人が座りやすくすることや、「空いているよ」とお知らせしてくれることなどがありました。道路で横断歩道を渡る際にも、必ずと言っていいほど停車し「完全に歩行者優先」と感じました。日本では、横断歩道は歩行者優先とされているが、歩行者の方が車の切れるのを待ち、渡るということがほとんどです。日本人は、他人を構わないとよく聞かれますが、ハワイで生活してみて実際に人の考えの違いを感じることができました。



月曜日～金曜日まで毎日あった大学の授業では、インターチェンジという「ハワイ大学の学生と会話をする」ということを週に2回しました。日本の学生2人とハワイ大学の学生1人の3人で会話をします。どの方も、わかり易いようにゆっくり話してくれ、わからない際には絵を書いて説明してくれるなど、何とかコミュニケーションをとることができました。内容は、自己紹介やお互いの国についてなどとても簡単なのですが、ジェスチャーなども使って“英語”で相手に伝えるということとはとても難しく大変でした。

初めて海外に出てみて、国が違うということは「環境や文化や生活の仕方など全てが違う」ということなのだとわかりました。その違いに、最初は戸惑うことばかりでしたが、生活していくうちに違いを理解していくことができました。これが異文化理解なのだと思います。友人と共に支えあいながら3週間を過ごしました。それぞれの国には違う良さがあり、それを感じることで自分の国の良さを再実感でき、逆に直さなくてはいけないと思わされる場所もありました。今回の研修で、客観的に日本という国について考えることができたと思います。

このように、日本とアメリカでは「生活の仕方が異なる」ことがわかりました。そして、ハワイ大学の授業では、「言葉が通じないなかでジェスチャーや絵でどうしたら相手に伝えることができるのか」という難しさを感じました。このようなことは、海外に出てみないと感じる事が出来なかったことだと思うので、とても良いことに気づくきっかけになったと思います。ここで気づけたことを大切に、「異なる良さ」や「人に伝えることの難しさ」にこれからも注目して生活していきたいと思いました。

また行きたいと必ず思えるような充実した、とても良いプログラムでした。



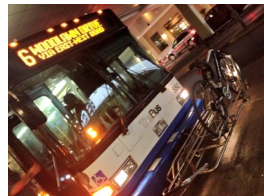
ハワイ研修初日、私は大雪に巻き込まれて飛行機に乗れなかった。出発するとき電車が止まってしまい居酒屋にとまることになってしまった。でも、最終的には二日遅れで飛行機に乗れた。親に見送られ一人でハワイに行くこととなった。ハワイ研修に行くとき楽しそうと思っている反面、ハワイ研修の人たちと上手なじめるのだろうか、そんな不安もありました。

最初ハワイ研修の人たちとあった時、ぎこちない関係でした。しかし、日がたつて行くにつれて仲が深まり次第に心を開くようになりました。学校の授業はグループディスカッションの形式で生徒が積極的に英語で話、授業をおこなっていくというかたちでした。また、先生との距離が非常に近く、話やすくて丁寧でした。ハワイ研修で授業をしてくれた先生は主に二人で**Mohr**先生と**Robert**先生でした。**Robert**先生は社会科見学やアクティビティやインターチェンジなど幅広く教えてもらいました。英語をより深く学べたのでいい経験になりました。**Mohr**先生は仏教に関する専門的な勉強が多くハワイの歴史について教えてもらいました。けれども、話す内容が難しく特に仏教の専門がわかりにくかった。だけれども、落ち着いて英語を聞いたら、内容が面白くハワイの歴史について大きな興味をもちました。また、仏教の授業の時は、生きるという感謝の気持ちについての話で分かりやすい内容でした。人は生きていくのは当たり前ではなく生かされていることの感謝・命の尊さを実感しました。大正大学の四つの心の慈悲、智慧、中道、自灯明を改めて、かみしめました。ハワイ研修に行ったら私はハワイの異文化や英語によるコミュニケーションを学ぶことができました。疲労や体調を崩すこともしばしばありました。けれども、海外に行くというのは、今私たちが住んでいる日本を様々な形でみることができるようになりました。三週間という短い期間だったけれどもハワイ研修では貴重な経験をしました。



私は語学力とコミュニケーション力の向上のためにと今回の春期集中講座に参加しました。しかし、3週間という短い期間で私はそれだけではなくハワイの文化や歴史を学び、私自身の物事の考え方も変わりました。ごく一部ではありますが、ここに報告致します。

文化 ハワイで私がまず目に付いたのは、ハワイの人々の人柄と交通機関内でのマナーです。私はバスを移動手段として使っていたのですが、ハワイのバスでは考えさせられることが多くありました。日本同様、入り口付近には優先席があるのですがハワイの人々はその優先席をととても重要視しているように感じます。年配の方以外で優先席に座る人もバス内で寝る人もいなく、優先席が満席だとすぐに席を譲ろうとする人がいるのです。日本でもよく見られる光景ですが、ハワイではより徹底されているような印象を受けました。また、交通機関内だけに限らず携帯をいじる若者



や音楽を聴きながら歩く人もいなく、日本でその光景に見慣れてしまっている私は恥を感じ見習おうと強く思いました。そして、このことについてハワイ大学の学生の意見も聞いてみたのですが、マナーが悪い人がいると必ず誰かが注意をするし、ハワイではこれが当たり前と言っていました。私はこの経験がとても心に響き、帰国してからもこのようなマナーにより気をつけるようになりました。

自然 自然への尊重心の強さもハワイで印象的だったことのひとつです。例えばハワイの伝統文化フラがそうです。フラには自然の神を賛美するという意味が込められていて振り付けにも太陽や海の恵みに対する感謝、自然現象への祈りが表現されています。それと言うのも、ハワイに古くから伝わる神話には大地、



空、海、火山など多くの神々が描かれ、人々はそれを信じているからです。また、フラだけではなく建築物にも自然との共存を表されていました。ワイキキのダウンタウンにある”ハワイ州政府ビルを訪れたのですが、この建物はハワイ州政府の中心地でビルの周りには海を表現した池があり、建物の中央部が吹き抜けとなっていてところから火山をイメージして造られたと言われています。政府ビルにも関わらず、ドアなどの仕切りも天井もなく誰でも訪れることができ、オープンな感じがハワイらしいです。太陽の光が差し、風が吹き込む自然に開放的な造りに私は感銘を受けました。

歴史 歴史の面でも考えさせられることが多々ありました。えひめ丸慰霊碑で行われた追悼式に列席させていただいたのですが、なかなか体験できることではありませんし、大変心に響くものがありました。えひめ丸とは愛媛県立和島水産高校の実習船です。2001年2月にハワイ沖で米原潜に衝突され沈没し、9人



が取り残され犠牲となりました。この慰霊碑では毎年追悼式が行われ日本から遺族の方々や海上自衛隊、ハワイからも多くの関係者の方々が列席し黙祷を捧げています。今年も2組の遺族の方が列席していました。慰霊碑の管理もハワイ州のボランティアの方々が定期的に行っているそうです。慰霊碑に刻まれているようにもう二度とこのような事件が起こらないように平和と安全を私も願っています。

また、真珠湾にも訪れたのですが、ここでは追悼式の時とはまた違った心境になりました。今まで私が知っていた真珠湾事件は日本からの視点でしたが、実際に真珠湾へ行ってアリゾナ記念館を見てアメリカからの視点でも真珠湾について学び、今まで以上にこの事件のことを重く考えさせられました。



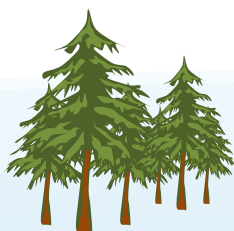
真珠湾攻撃の実際の映像などの短編映画を見てからボートでアリゾナ記念館へ行くのですが、何とも言えない心境になりました。記念館は沈没した戦艦アリゾナ本体の真上に建てられ、中にある大理石の壁には真珠湾攻撃で戦死したアリゾナ乗組員全員の名前が刻まれていました。また、中央床には穴が開いておりアリゾナの甲板を見下ろすこともできます。記念館について、一番印象に残っているのはアリゾナから漏れ出しているオイルの匂いです。海面には今もなおオイルが浮いていてあたり一面異様な匂いがしていました。このオイルの匂いがより一層、真珠湾攻撃の激しさを物語り日本人は訪れるべき場所だと感じました。

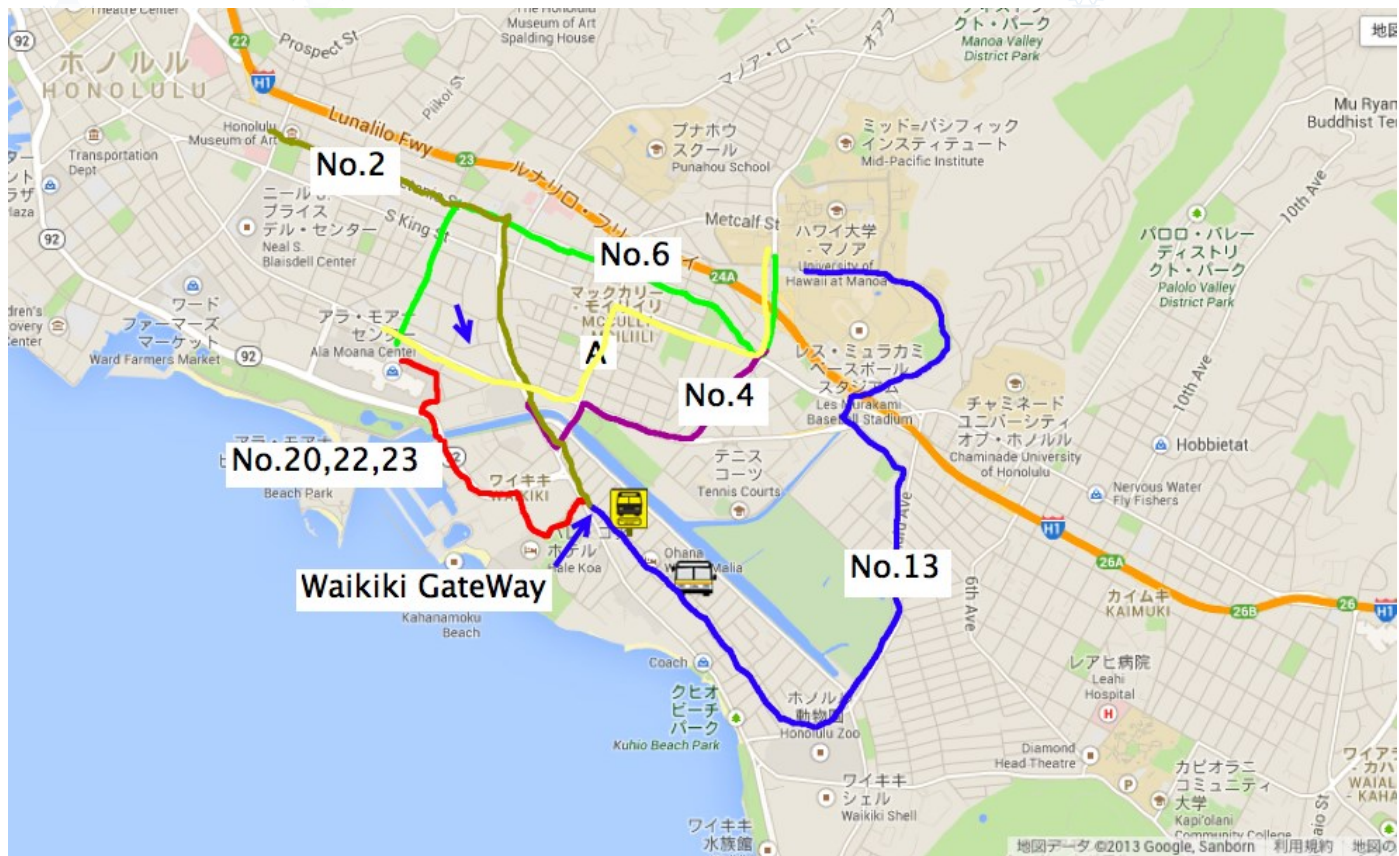
以上のように3週間という短い期間でしたが、日々気付かされることも学ぶことも多くあり、日本に帰国してから改めて身になることもありました。私はこのような貴重な経験を積むことが出来たことへの感謝の気持ちを忘れずに、これからの生活にも生かしていきたいと思います。



大正大学 ハワイ大学語学研修 2014 計画表

						2月1日(土)
2月2日(日)	2月3日(月)	2月4日(火)	2月5日(水)	2月6日(木)	2月7日(金)	2月8日(土)
						21:30 東京成田空港 09:30 ホノルル着
2月9日(日)	2月10日(月)	2月11日(火)	2月12日(水)	2月13日(木)	2月14日(金)	2月15日(土)
AM	8:30 - 9:30 Greeting and Introduction	8:30 - 10:30 Class	8:30 - 09:30 Class	8:30 - 10:30 Class	8:30 - 09:30 Class	School trip
AM	10:15 - 12:20 Orientation and Campus tour	10:30 - 12:20 Class	09:30 - 12:20 Interchange with UH students & Class	10:30 - 12:20 Class	09:30 - 12:20 Interchange with UH students & Class	Kailua City
PM	Lunch 1:30 - 15:00 Campus Tour	Lunch	1:30-16:30 ハワイ浄土宗別院 天台宗ハワイ別院	16:00-17:30 Lecture	14:00-15:30 Lecture / Kuykendall Hall 310	Kailua Beach
2月16日(日)	2月17日(月)	2月18日(火)	2月19日(水)	2月20日(木)	2月21日(金)	2月22日(土)
AM	8:30 - 13:30 Off-Campus	8:30 - 10:30 Class	8:30 - 9:30 Class	8:30 - 10:30 Class	8:30 - 9:30 Class	Movie day
AM	Activity	10:30 - 12:20 Class	09:30 - 12:20 Interchange with UH students & Hula	10:30 - 12:20 Class	09:30 - 12:20 Interchange with UH students & Class	Word Stadium 16
PM ホノルル水族館(OP)		16:00-17:30 Lecture Dr. Mohr	Lunch	Lunch	13:30 - 16:00 Japanese Cultural Center of Hawaii	
2月23日(日)	2月24日(月)	2月25日(火)	2月26日(水)	2月27日(木)	2月28日(金)	3月01日(土)
AM Activities	8:30 - 9:30 Class	8:30 - 10:30 Class	8:30 - 9:30 Class	8:30 - 10:30 Class	8:30 - 11:30 Class	10:55 ホノルル国際空港
AM Activities	09:30 - 12:20 Interchange with UH students & Class	10:30 - 12:20 Educational Activity	09:30 - 12:20 Interchange with UH students & Class	10:30 - 12:20 Class	Graduation Ceremony	3月02日(日) 15:10 成田空港着
PM Activities		16:00-17:30 Lecture Dr. Mohr	Honolulu Museum of Arts	Lunch	Luncheon	





成果は数字で測れない

報告書の中に、学生たちが強く感じ取っている「世界の中の日本」についてこう述べている。

「グローバル化が進み、日本にしながら世界と繋がるのが容易になった今だからこそ、外国に行く必要がなくなったのではなく、むしろ実際に行ってみて自らの目を見たことを、自分自身で考えることがとても重要になってくるのではないかと思う。井の中の蛙になってはもったいない。」「日本の歴史からも分かる。島国だから、ということを使い訳に、なかなか世界と触れ合おうと行動してこなかった自分が、結局はすごく日本人らしいと思った。日本のことは好きであり、日本人らしい自分も好きだが、今回の経験を通して、もっと日本を知るべきだと感じ、さらに考えるだけでなく行動し世界に触れたいと思った。」彼らの言葉ですべてを語っているように思われる。外向的になれずに「内向化」になりつつある大学生たちが多く中で、このような気持ちを少しでもファシリテートできたなら、私達、国際教育を担当する者としては、今後の学生に示すべき操舵は自ずと預けられたのではないかと思う。

今後とも、きっかけを作ること、学生自らに気づきと発見を大切にプログラムの推進に邁進したいと考えている。

ハワイ語学研修文集 2013

東京都豊島区西巣鴨3-20-1
大正大学
教務部学修支援課

電話番号: 03-5394-3039

電子メール: kokusai@mail.tais.ac.jp

